

6年生修学旅行 平和を希求する旅に 行ってきました

11月10・11日（金・土）に、6年生は長崎・佐賀へ修学旅行に行きました。インフルエンザが流行している時期に、全員で出発し、元気に帰ってきたことが何よりうれしいことでした。

1日目はバス車中で永井隆博士の生涯を学んでから、長崎市内で平和学習です。城山小学校（被爆校舎と嘉代子桜）、原爆資料館、国立追悼平和祈念館、フィールドワーク（原爆落下中心地、浦上天主堂、如己堂、永井隆記念館、山里小学校、平和公園）と、たくさんのお見学地で、現地ならではの、本物ならではの実感を得る学習をしました。さらに、フィールドワークでお世話になった末永さん（被爆当時9歳）の被爆体験講話。子どもたちはしっかりと顔を上げて講話に聴き浸っていました。子どもの感想を紹介します。

戦争をするとたくさんのものを失うことが分かりました。戦争は何にも関係ない人を殺したり苦しめたりすると知って、絶対に戦争はやりたくないと思います。自分の命も周りの命も大切にしていきたいです。（一部抜粋）

戦後78年。自らの被爆体験を語ることでできる方は80歳を超え、年々少なくなっています。子どもたちはそんな貴重な講話を聴くことができる最後の世代。今回の体験を、学習を、今度は自分たちから発信していける力に高めていきます。



2日目は出島、大浦天主堂、グラバー園で、江戸時代に唯一海外に開かれていた長崎の文化や歴史に触れ、佐賀に移動して宇宙科学館、吉野ヶ里歴史公園で科学や古代歴史についても体験しました。



多くの思い出を作ることができた修学旅行。楽しかったことはもちろん、戦争の悲惨さと平和を築くことの難しさ、尊さを心に刻んで、大切にしてくれると期待しています。

世界では今この瞬間も、戦渦に巻き込まれている人が大勢います。その一人一人に名前があり、家族があり、人生があります。私自身も、毎日流れる戦争のニュースを聞き流さない、慣れない人でありたいと思います。



町公開授業研 人権教育の授業を 町内で 公開しました

11月2日（木）午後、南関町内の小中学校で、一斉に人権学習の公開授業を行いました。四小でも、5年生が担任の本田先生と「くつつかくしのこと」の授業を行いました。この教材を学習して、一人一人が伝えたいことを綴っており、公開時はその中の数人が伝えたいことを発表するとともに返しの言葉を伝え合いました。最後の振り返りで子どもたちから「これが5年生の課題なんだと思った」「なくせるようにしていきたい」と、自分事として考えた言葉が出てきました。四小ではこれからも人権学習を重ねていきます。今は今月の人権集会に向けて取り組んでいます。

